

1～4号機用汚染水貯蔵タンク 水量・容量算出方法の統一について

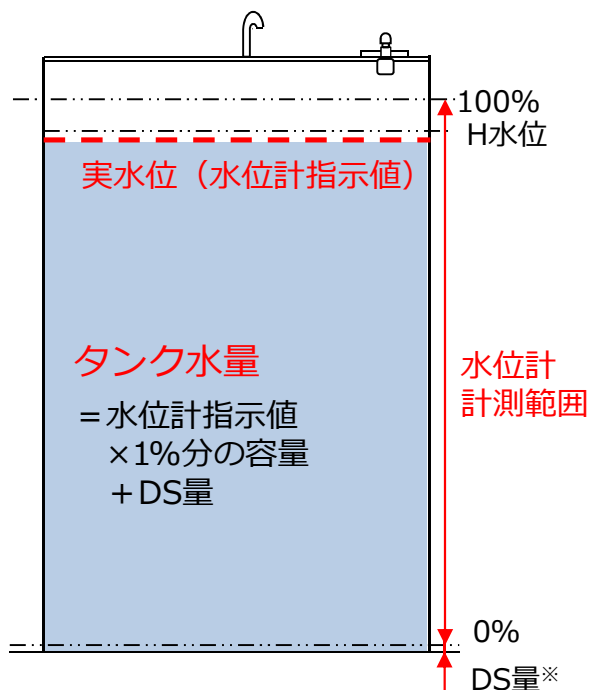
2019年7月25日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

タンク水量・タンク容量算出方法の統一について

- タンクエリア毎に、タンク水量・容量の算出方法が異なっていたため、今後、全エリアの算出方法を統一
- 全エリアの算出方法統一により、既に公表済のタンク水量・容量を変更



※：ダウスケール(DS)量とは、水位計の計測下限値未満水量を示し、算出にあたってはタンク底面積と0%位置までの高さにより算出している。

【タンク水量の計算式】

$$\text{水量} = \text{水位計指示値}[\%] \times 1\% \text{分の容量}[\text{m}^3/\%] + \text{ダウスケール(DS)量}[\text{m}^3] \ast$$

【内容】

- 1%分の容量の算出にあたり、以下の設定法が存在していたが、今後は設定法①に統一
 - 設定法①：水位計計測範囲（0から100%まで）の容量を百等分
 - 設定法②：タンク図面よりタンク満水（底部から100%まで）の容量を百等分上記設定法の違いは、設定法②が設定法①よりもタンク1基あたり約0.2%分の水量が多くなる設定となる。
- 1%分の容量算出後の端数処理において、切り捨てる桁数を統一

【タンク容量の計算式】

$$\text{容量} = \text{H水位設定値}[\%] \ast \times 1\% \text{分の容量}[\text{m}^3/\%] + \text{ダウスケール(DS)量}[\text{m}^3]$$

※H水位設定値：移送ポンプの自動停止水位

【内容】

- 1%分の容量算出において、タンク水量の計算式と同様に設定法①と設定法②が混在していたため、設定法①に統一

算出方法統一後のタンク水量・タンク容量について

- 算出方法の統一を7月11日集約分の水処理週報（7月16日公表）から反映
- 統一前後での影響は下記の通り。

【タンク水量】

[2019年7月11日5:00時点]

	ALPS処理水 (m ³)	Sr処理水等 (m ³)
タンク水量【統一前】	1,045,060	93,642
タンク水量【統一後】	1,043,051	93,436
【統一後】 - 【統一前】	△2,009	△206

【タンク容量】

[2019年7月11日5:00時点]

	ALPS処理水 (m ³)	Sr処理水等 (m ³)
タンク容量【統一前】	1,096,700	132,700
タンク容量【統一後】	1,094,600	132,500
【統一後】 - 【統一前】	△2,100	△200

【参考】

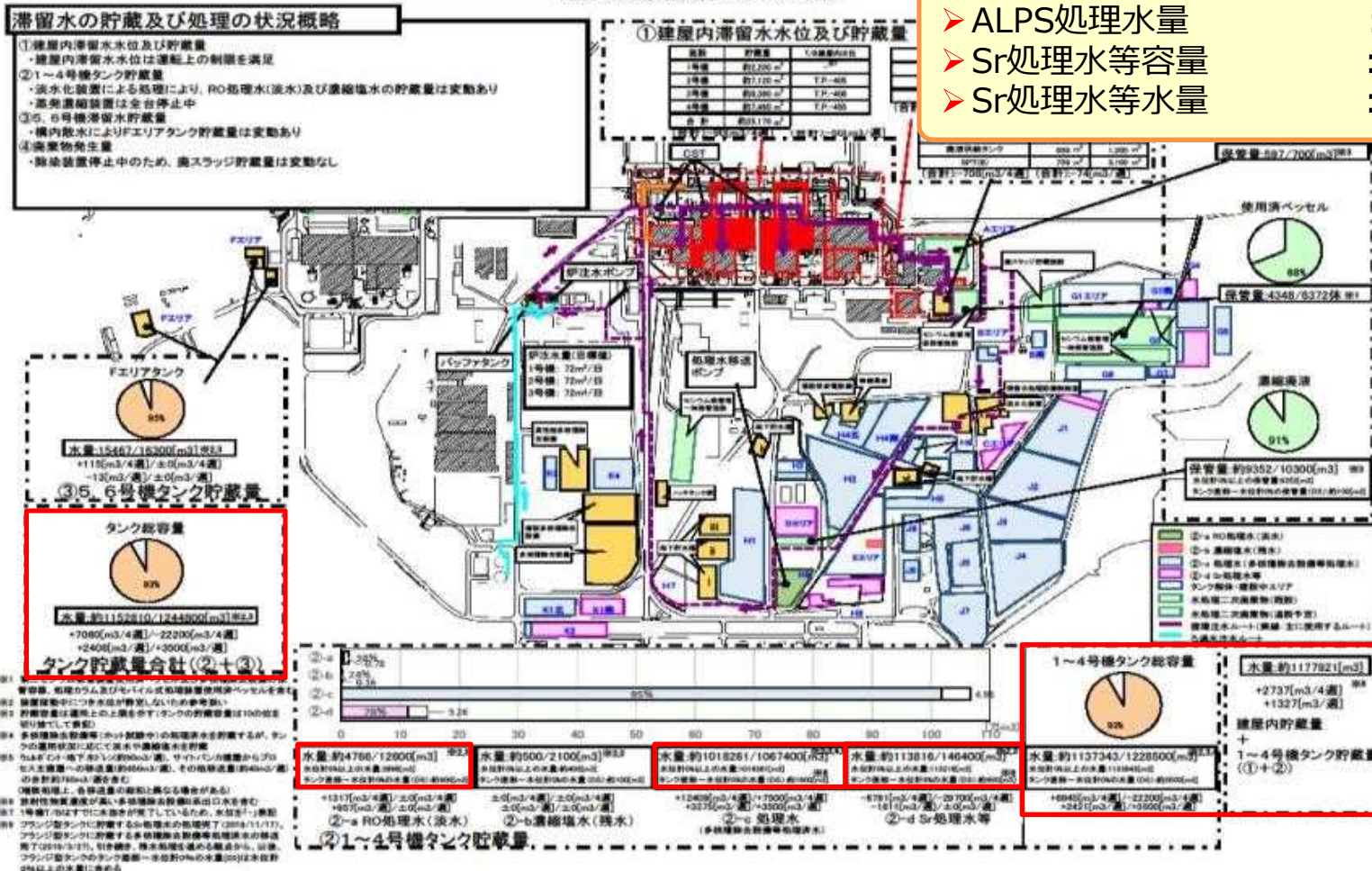
公表資料への反映：水処理週報及びチーム会合事務局会議資料（貯留水の貯蔵容量）



- 水処理週報は、7/11集約データを用いてタンク水量・容量を変更し、7/16に原子力規制庁へ提出
- チーム会合事務局会議で公表している数値は7月分より反映

【廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料】

滞留水の貯蔵状況(4月18日時点)



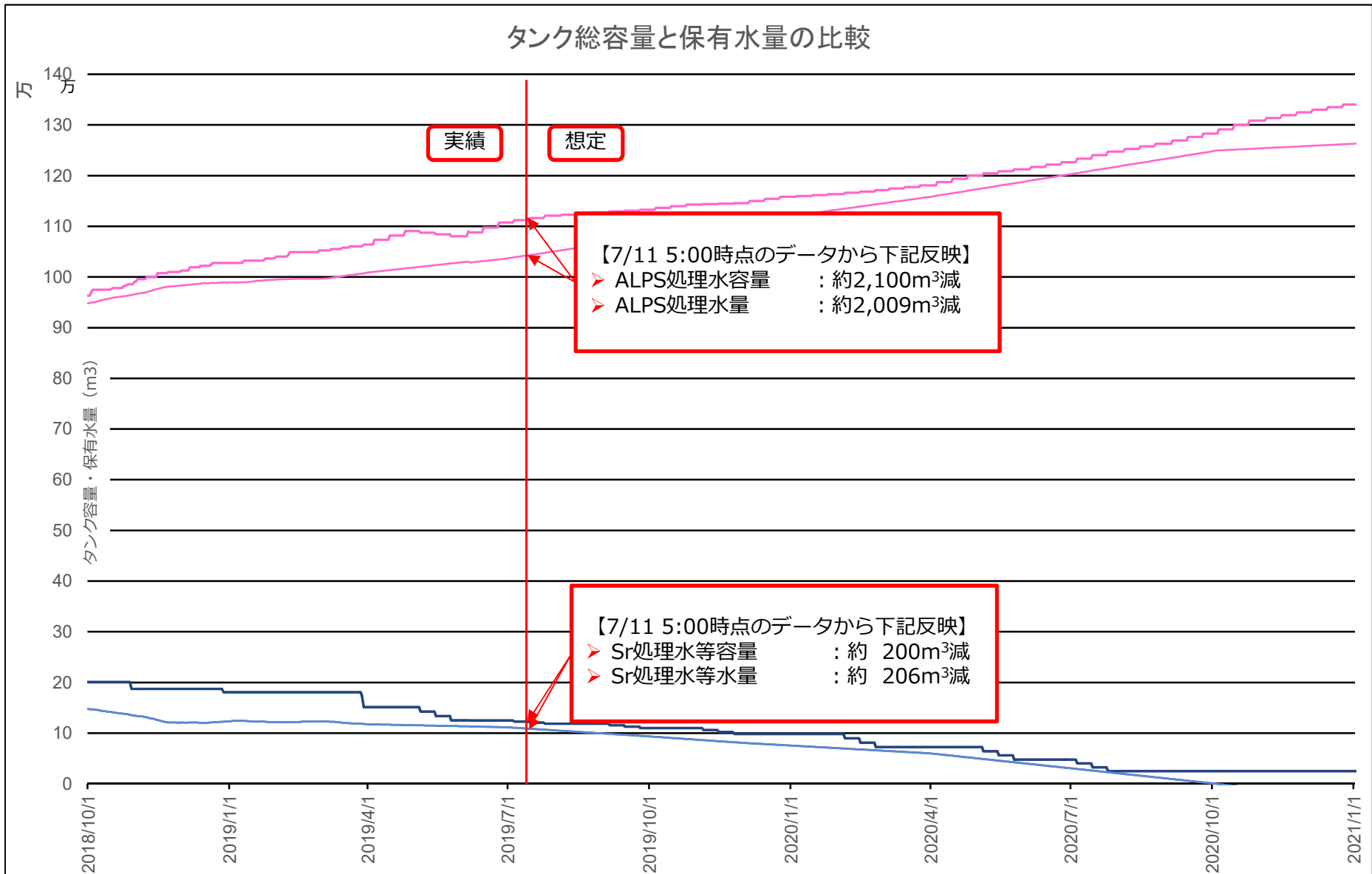
- ALPS処理水容量 : 約2,100m³減
- ALPS処理水量 : 約2,009m³減
- Sr処理水等容量 : 約 200m³減
- Sr処理水等水量 : 約 206m³減

【参考】

公表資料への反映：チーム会合事務局会議資料（水バランスシミュレーション）



【廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料】



【参考】

公表資料への反映：処理水ポータルサイト（1 / 2）



【処理水ポータルサイト】



タンク内処理水の貯蔵量

処理水の貯蔵量(2019年4月18日現在)

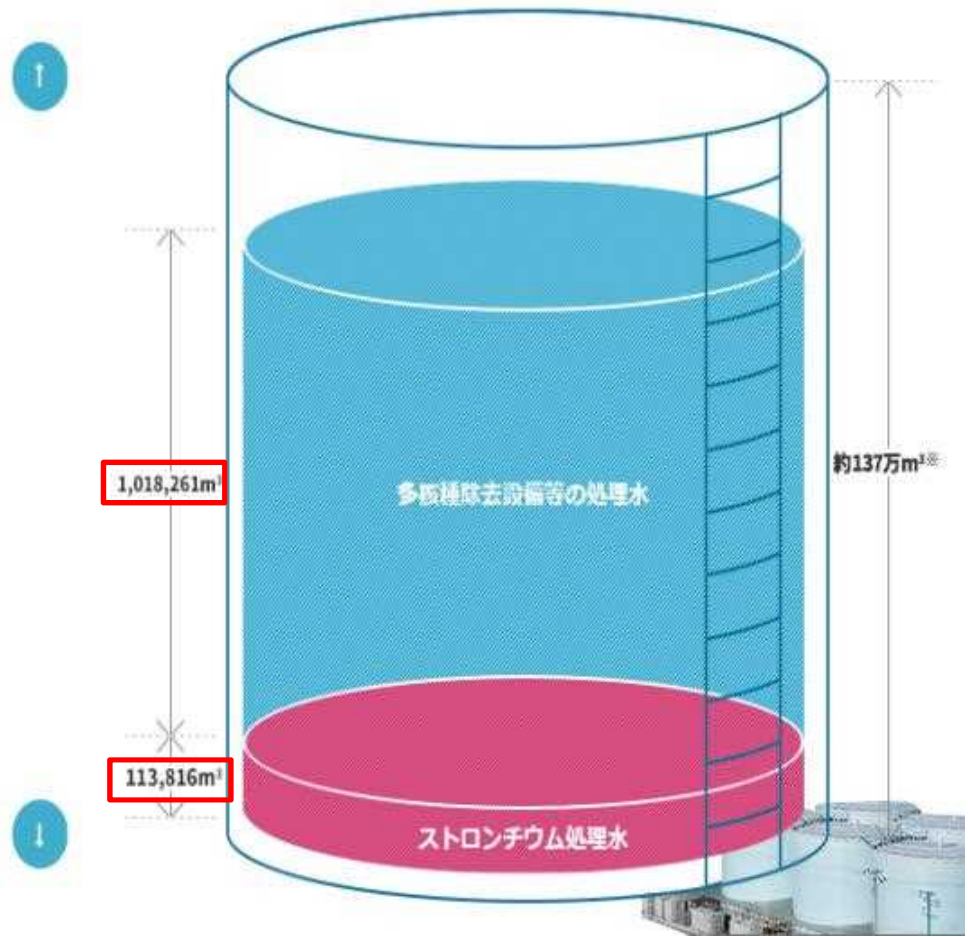
1,132,077 m³

*水位計の測定下限値からタンク底部までの水を含んだ貯蔵量

本資料は「廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議」後、毎月更新しているため、7月25日の同会議後に更新する。

なお、更新にあたっては先月からのALPS水量及びSr処理水等水量の増減が含まれる。

TOP お知らせ **処理水の現状** 処理の経緯 Q&A リンク・データ集 ENGLISH



【参考】

6/27 廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料再掲

公表資料への反映：処理水ポータルサイト（2 / 2）

TEPCO

【処理水ポータルサイト】

TEPCO

TOP

お知らせ

処理水の現状

処理の経緯

Q&A

リンク・データ集

ENGLISH

多核種除去設備等の処理水の貯蔵量（2019年3月31日現在）

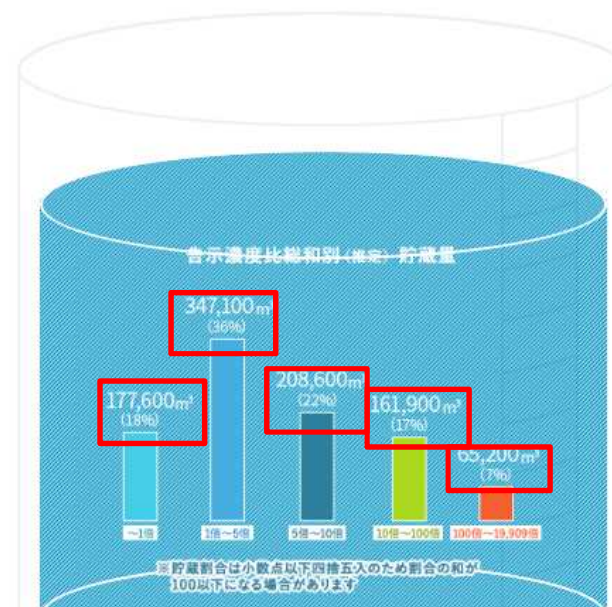
960,400 m³

* 満水タンクのみをカウントした貯蔵量で、全体貯蔵量とは差があります

現在、多核種除去設備等の処理水^①は、トリチウムを除く大部分の放射性核種を取り除いた状態でタンクに貯蔵しています。

多核種除去設備は、汚染水に関する国の「規制基準」のうち、環境へ放出する場合の基準である「告示濃度」^②より低いレベルまで、放射性核種を取り除くことができる（トリチウムを除く）能力を持っています。ただし、設備運用当初の不具合や処理時期の運用方針の違いなどにより、現在の告示濃度比^③総和別の貯蔵量

※



○ポータルサイト掲載 告示比毎のALPS処理水貯蔵量について

- ・このデータは、4半期ごとに新たに満水になったタンクについて集約時（各四半期末）の水位計指示値から貯留量を算出し告示比（推定値）毎に積算した値。
- ・統一後の公表としては、処理水ポータルサイト（処理水の貯蔵量）の更新に合わせて7月末に更新する。

【参考】スケジュール

2019年度		
6月	7月	8月
	<ul style="list-style-type: none">■ 事務局会議 (6/27) (統一案の説明) ▼ データ反映 (7/7~) ■ 週報提出 (7/16公表) ■ 事務局会議 (7/25) (統一後のタンク水量及び容量反映) ■ 処理水ポータルサイト更新	